

前提

未来の水行政と琵琶湖

総合的なバランス

コストバランス

考えるのに必要なこと

情報の共有

住民の生命財産の保護

水害の実情

H7の浸水時には湖岸沿いの農道も一週間程度冠水していた

床下しんすいもあった

治水(河川改修)の進め方(下流から進める)

下から浸水した水は時間がかかる

浸水地域でも許容できる場所と許容できない場所がある。

宇治周辺がつかる

琵琶湖の水位上昇と周辺地の浸水被害とは無関係

京阪神の野菜のねだんに影響

琵琶湖周辺の浸水被害は内水被害です。

住民(滋賀)の基本ベースの考え方堰の操作について

使えるヒモンは必要

宇治川の水量が多いと中小河川は排水できない

上下流の視点

上流にとって人工的なヒガイがおこっている

琵琶湖の水位低下には1500t必要

狭窄部も琵琶湖・総・事

琵琶の洪水は全閉による人為的要素大

琵琶湖は耐えている放流期まで

地盤

天ヶ瀬ダムは砂岩の上、横に離れるとちがっている

天ヶ瀬周辺の上昇は0.5mm/年の地殻変動

兵庫県南部地震でこわれたダムがある

自然環境

宇治川流域は野鳥自然の宝庫です

環境省で指定された特殊種が多い

検討して欲しい

水利権の見直し

琵琶湖の制限水位のあり方を考える必要がある

絶対やめて欲しい

生物の生息をムシした工事

知りたい

生息できる場所を残す必要がある

地質の安全性が知りたい

昆虫の生息を調べる

(情報) 宇治川淀川の安全性 900と1500

S46年の1500tと現在の1500tは意味がちがう

理想の姿

山の保全

自然と共存(自然に逆らわない)

景観に配りよした工事

むやみに自然を改変しない

生物に配りよした工事

情報の公開

マイナスの情報を公開